

2022年度

報告書



女性キャリア開発研究センター Center for Women's Career Development





京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部女性キャリア開発研究センター

INDEX

ご挨拶	
光華女子学園の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・ 02	
センターの役割・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03	
活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 04	
I 女性のための就業継続支援システムの構築	
(1) 新入生対象「職業意識に関するアンケート調査」結果	,
Ⅱ 減災リーダー育成プログラムの開発	
(1) 活動報告・・・・・・・12	
Ⅲ 女子大学連携のためのネットワーク	
(1) 第4回ミーティング・・・・・・・14	
(2) 第5回ミーティング・・・・・・・・・・・・・・・・・15	j
IV キャリア教育	
(1) キャリア支援・・・・・・・・・16	
(2) インターンシップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・17	
(3) ボランティア・・・・・・・・・・・・・・・・・・18	
(4) 学Booo······18	
V リカレント教育	
(1) 本学のリカレント教育22	
(2) 女性のためのリカレント教育推准協議会	



ご挨拶

時代を超え受け継ぐ校訓「真実心」 今こそ「輝く女性の未来」を導く

学校法人 光華女子学園 名誉理事長·学園長 阿部 敏行



光華女子学園は昭和14年、東本願寺の故大谷智子裏方(昭和天皇妃-香淳皇后-の妹君)の「仏教精神に基づく女子教育の場」を、との願いによって設立された真宗大谷派の宗門関係学園です。校訓を「真実心」と掲げ、教育の基本を仏教、なかでも親鸞聖人があきらかにされた浄土真宗の教え、すなわち「生かされ生きていることの自覚」による人間形成に置き、向上心(=精進)、潤いの心(=慈悲心)、そして感謝の心、すなわち「光華の心」を大切にする人間の育成に努めております。近年女性の生き方が多様化し、女性に係わる社会的問題が多角的に進展する中、女性の社会での活躍が大いに期待されているのは周知の通りであります。私たちは長年培ってきた本学園ならではの女子教育の理念と人材育成の成果を基軸に、これからの社会に求められる「知性と教養のある輝く女性の未来」を探求するとともに、社会への知の還元と連携を深めつつ、女子教育の研究と発展を目指して、「女性キャリア開発研究センター」を2016年4月に開設いたしました。校訓「真実心」があらわす「慈悲心」、言い換えれば、「おもいやりの心」、「寄り添う心」、「他者への配慮」、「共に支えあう心」は、時代を超えて、現在の殺伐とした心の乾燥社会においても、強く希求されるものであります。創立以来脈々と受け継がれてきた建学の精神に矜恃を持ち、女子の高等教育機関としての社会的責任を果たすためにも、女性キャリア開発研究センターの充実発展に一層の努力をしてまいります。

学校法人 光華女子学園 理事長 阿部 恵木

光華女子学園の教育の基本は校訓「真実心」のもと、「思いやりの心」「他者への配慮」「ともに支え合う心」を 持った人材の育成であり、その実践として「光華の心」を持とうとする心がけを大切にしております。「光華の心」 を持つとは、自己を問い、自己と向き合い、自分の姿をあきらかにしようとすること(向上心)を通し、自分を 支えてくださっているすべての存在に感謝できる気持ち(感謝の心)が芽生え、その表れとして思いやりのある 言動が行えるようになる(潤いの心)ということです。このような理念のもと開学以来80余年、一貫して女子



教育に努め、約75,000名の卒業生を世に送り出してまいりました。近年、少子高齢化やグローバル化の急速な進展、Society5.0時代の到来など さまざまな社会環境が変化するなか、社会が期待する女性の役割だけでなく女性自身が思う女性の役割も大きく変わってまいりました。この ような変革期において女子教育の役割は重要であり、期待も高まっています。本学園の女性キャリア開発研究センターでは、在学生のみならず、 卒業生や一般の女性も含め、女性のキャリア開発に関する教育・研究や支援を行っておりますが、その基本は女性の人生に「寄り添う」ことで あります。光華の心を胸に秘め、自分だけでなく他者も慮れる人材、すなわち「自利他利円満」な人材を育成することが「女性の輝く社会実現」 に繋がるという信念のもと、本学園の発展に努力してまいります。

「女性キャリア開発研究センター」への期待

京都光華女子大学·京都光華女子大学短期大学部 学長 高見 茂

本学に設置されている「女性キャリア開発研究センター」(以下「センター」)の担う業務は6点ほど提示されて いる。それらは、概ね女子大生が社会人として自立できる存在になるための支援と研究に集約できる。設立

以後の活動を振り返ればそれなりの成果も見られるが、「センター」のさらなる業務効率の高度化のためには、私は2つのことに取り組んで頂 きたいと考えている。一つは内向きのことであるが、個別業務の相関性・関連性を検討し、それを踏まえた組織全体としての有機的構造を明 らかにすることである。こうした整理を通じて、今一概念がはっきりしない「女性のキャリア開発」の内実が詳らかになると考えられる。もう一つ は、女性のさらなるキャリア形成の促進のためには、内向きの業務に加えて、女性を取り巻く経済・政治・社会環境の抜本的改善・改革を促す 積極的役割を担うべきであろう。研究成果の効果的な社会発信とともに、社会制度の改善・改革(政財界の女性リーダー数の増加、収入の男 女格差の是正等)についても各種チャンネルを通じて意見表出を進めるべきである。米国のデル・テクノロジーの調査によれば、「女性の起業 しやすい都市ランキング」で東京は50位中39位、資金・市場へのアクセス、技術水準でシンガポール(同8位)に大きく水をあけられている。今 後の「センター」の積極的提言・行動を期待したい。

「女子大学に期待されること」へのチャレンジ

女性キャリア開発研究センター センター長 加藤 千恵

女性キャリア開発研究センターは、キャリア教育機関としての役割と研究機関としての役割を期待されて います。前者としてインターンシップやボランティア活動の支援、本学独自の自由参加型ラーニング コミュニティ学Boooの運営、セミナー開催やキャリア相談、後者として女性の就業継続を支援するために

必要なシステムの構築を目標に、在学生対象の職業意識調査や卒業生の就業状況調査を実施し、データの収集と分析を行っています。 そこで得た知見をもとにリカレント教育をスタートさせ、今年度は「ウェルビーイングに生きる学び直しプログラム」として2つのコースを 運営しました。大学における教育や学生支援のあり方は21世紀に入って様変わりし、一方で女性の働き方の変化が男性の働き方にも 影響を与える時代になりました。女子大学が取組む課題は増えつつあり、本学も含めて多くの大学がその社会的役割に気づいています。 京都の3女子大学が全国の女子大学に呼びかけた「女子大学連携ネットワーク」に多くの女子大関係者の方々が集ってくださるのは、 個々の大学で対応するには限界がある課題を共に解いていく時代にきていることを共有し合えるからでしょう。女性たちの就労に対する 意識が変化するなかで、これからの女子大学が社会に出た女性たちに何ができるのか、何をするべきか。今後も多様な仕事、異なる ニーズをもつ女性たちに向けたサポートを進めてまいります。

光華女子学園の概要

光華女子学園は、京都光華女子大学、京都光華女子大学院、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校、 光華小学校、光華幼稚園を設置し、同一キャンパスにすべての校園を配する総合学園として 2020 年度、創立 80 周年を迎えた。

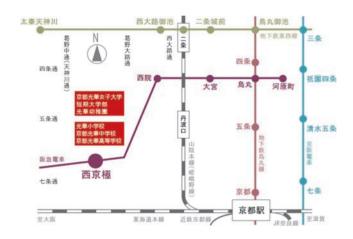
沿革

1939(昭和14)年 9月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可 1940(昭和15)年 4月 1日 光華高等女学校開設 1944(昭和19)年 3月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置 1945(昭和20)年 3月29日 高女同窓会「渤清会」発足 1947(昭和22)年 3月15日 女専同窓会「ふかみぐさ」発足 1947(昭和22)年 4月 1日 学制改革により光華中学校開設(光華高女より) 1947(昭和22)年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称 1948(昭和23)年 4月 1日 学制改革により光華高等学校開設(光華高女より) 1950(昭和25)年 4月 1日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置 1951(昭和26)年 2月28日 学校法人光華女子学園設立認可 1954(昭和29)年 4月17日 光華衣服専門学院開設 1964(昭和39)年 4月 1日 光華女子大学開設日本文学科、英米文学科を設置(短大文科を移行) 1965(昭和 40)年 4月 1日 光華幼稚園開設 1968(昭和43)年 4月 1日 光華小学校開設 1987(昭和62)年 4月 1日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置 1989(平成元)年11月15日 総裁大谷智子裏方環浄(83才) 1991(平成3)年4月1日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設 1993(平成 5)年 4月 1日 短期大学、家政科を生活学科に改称 1994(平成 6)年 4月 1日 大学、文学部に人間関係学科を開設 1994(平成 6)年11月22日 光華衣服専門学院廃校 1995(平成7)年4月1日 短期大学、生活学科に4専攻を設置 1997(平成 9)年 4月 1日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置 1998(平成10)年 4月 1日 光華女子大学大学院開設 文学研究科(修士課程)、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻を設置 2000(平成12)年 4月 1日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境学科に改称 光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称 英米文学科を英語英米文学科に改称 2001(平成13)年 4月 1日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、 光華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、 京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、 京都光華高等学校、京都光華中学校へ校名変更 大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科 を設置 2002(平成14)年 4月 1日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部に 人間健康学科を設置 2003(平成15)年 4月 1日 大学、人間関係学部に社会福祉学科を設置 2004(平成16)年 4月 1日 大学院に人間関係学研究科(修士課程)を設置 京都光華女子大学カウンセリングセンター (人間関係学研究科附属施設)開設 2005(平成17)年 4月 1日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設 2006(平成18)年 4月 1日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置 ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定 短期大学部にこども保育学科を設置 2008(平成20)年 4月 1日 大学、人間関係学部を人間科学部に改称 大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称 大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称 2010(平成22)年 4月 1日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、 健康科学部を設置 人文学部に文学科、心理学科を設置 キャリア形成学部にキャリア形成学科を設置 健康科学部に健康栄養学科を設置 2011(平成23)年 4月 1日 大学、健康科学部に看護学科を設置 2013(平成25)年 4月 1日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設 地域連携推進センター・環境教育推進室を設置 2014(平成26)年 4月 1日 大学、健康科学部に医療福祉学科(社会福祉専攻・言語聴覚専攻)。 心理学科を開設 大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称 2015(平成27)年 4月 1日 大学院に看護学研究科を設置 短期大学部、こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こども教育学科を設置 2016(平成28)年 4月 1日 女性キャリア開発研究センターを開設 2017(平成29)年 4月 1日 教職・保育職支援センターを開設 2018(平成30)年 4月 1日 大学に助産学専攻科を設置 2019(平成31)年 4月 1日 リベラルアーツセンターを開設 2020(令和 2)年10月30日 富小路まちやキャンパスを開所 2021(令和 3) 年 11 月 15 日 光華もの忘れ・フレイルクリニックを開院

2022(令和 4)年 4月 1日 大学に人間健康学群を設置

キャンパス

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスである。西京極キャンパスには、国道9号線(五条通り)を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されている。西京極キャンパスのほか、大原野グラウンド・花の寺グラウンド(西京極キャンパスから車で17分)を有し、運動施設として体育の授業や地域への開放などを行っている。





センターの役割



女性の人生によりそう「女性が輝く社会」をめざして

健やかな明日が華ひらく

本学は学園創立以来校訓「真実心」のもと、仏教精神に基づく教育で「心豊かで有為なる女性」の育成を実践し、大学短大においては正課教育と併せ、「キャリアセンター」がキャリア教育プログラムや個別相談などを通し、社会に貢献できる人格形成とスキルアップの支援と就職支援を推進してきた。長年培ってきた本学園ならではの女子教育の理念と人材育成の成果に加え、これからの社会と女性の関係性にフォーカスする教育を通して「女性の生き方」を探求し、女性のライフコースに沿ったキャリアの育成とその手法を社会に訴求、提言する「女性キャリア開発研究センター」を2016年度(平成28年度)に開設した。

2022 年度は下記 5 つの事業に取り組み、「V.リカレント教育」では新たなプログラムとして「ウェルビーイングに生きる学び直しプログラム」を実施した。就職や有職者のスキルアップにつなげるべく、卒業生や地域の社会人を対象に、ワークライフバランスの実現を目指し、時代にあった多様な知識やスキルを体系的に学ぶカリキュラムを提供した。

事業内容

| . 女性のための就業継続 支援システムの構築

女性のための就業継続支援システムの研究は、本学卒業生の就業継続促進要因・阻害要因を把握することによって、これから就業する女性たちに必要な支援策を職業別・職種別に構築していくものである。これまでに実施した「在学生の就業意識調査」、「教職員の職場環境調査」から得られた知見も含めて研究を展開させている。

減 災 リ ー ダ ー 育 成 プ ロ グ ラ ム の 開 発

II .

減災リーダー育成プログラムの開発は、本学の校訓「真実心 = 慈悲心」と、本学の学科・専攻の専門性を活かした新たな取組みである。全国的に災害リスクが高まるなか、本学の人的資源・物的資源を活用し減災に取組む手法を開発するために、自治体、本学の各学科・研究所・センターとの連携を進めている。

III .

女子大学連携のための ネットワーク

女子大学連携のためのネットワークは、「京都アカデミかフォーラム in 丸の内」に参加する京都3女子大学が全国の女子大学に呼びかけ2017年度にスタートした。女子子有に明持される課題を共有し、男女共同参画社会実現のなどうまからで開催し、地元京都は表となりを開催している。

IV .

キャリア教育

在学生のキャリア教育として、ビジネスマナー講座やコミュニケーション講座などのキャリアに関する各種ガイダンス、インターンシップ参加による単位取得支援や、ボランティア活動への参加促進、本学独自の自由参加型ラーニングコミュニティ「学 Booo」などを実施し、自己理解を深められるよう支援している。

٧.

リカレント教育

リカレントプログラムは、地域 連携推進センターと協働で、 卒業生をはじめ、京都で働く 女性たちのために、2019年 9月から、基礎講座・ビジネス 講座・専門職講座を開講した。 今年度も京都府の支援を受け、 保育サポート(生後6ヵ月~ 就学前)と就職サポートを 行っている。



活動報告 1.女性のための就業継続支援システムの構築

(1) 新入生対象「職業意識に関するアンケート調査」結果

入学直後の大学 1 年生および短大 1 年生を対象に実施した調査結果の一部を報告する。質問項目は、ライフコースについての考え方、性役割分業意識、女子大学について等である。

■調査概要

調査対象:2022 年度 新入生 476 名(大学・短大 1 年生)

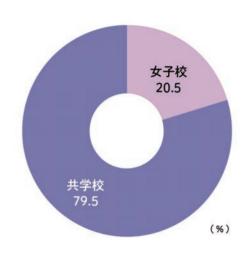
調査期間: 2022年4月6日~2022年4月20日

調査方法:専用フォーム(Forms)

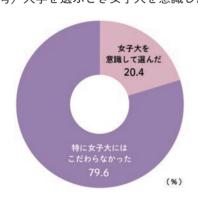
回答状況:有効回答数 341 件 回答率 71.6%

■調査結果

① 女子校で学んだ経験(女子高出身者)は2割

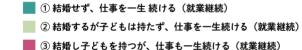


(参考) 大学を選ぶとき女子大を意識したか



本学 EM・IR 部「2022 年度新入生アンケート」 大学・短大 1 年生 452 名が回答、回答率 95.0%

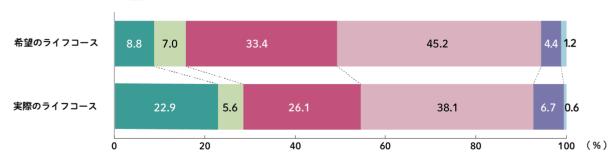
②「将来希望するライフコース」と「実際どのようなライフコースになると思うか」(比較)



④ 結婚し子どもを持つが、結婚や出産でいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ(再就職)

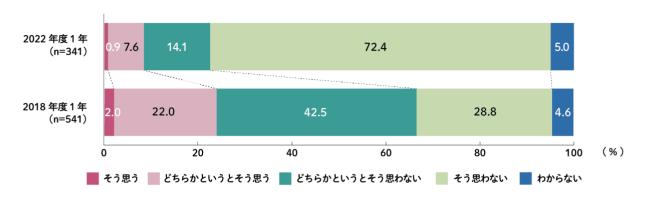
⑤ 結婚し子どもを持ち、結婚や出産で退職し、その後、仕事を持たない(専業主婦)

⑥ 結婚せず、仕事と子どもを持つ(就業継続)



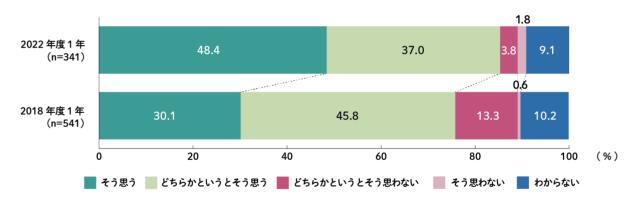
希望するライフコースで最も多かったのは「結婚出産退職・再就職」であるが、7ページで述べるように、大学生の場合、 卒業時には「就業継続」が最も多くなる傾向がみられている。 新入生の性役割意識について、2022 年度入学者と 2018 年度入学者の結果を比較してみよう。若い世代の性役割意識は明らかに変化していることがわかる。

③「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

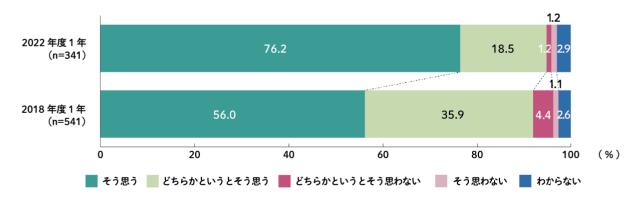


「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という性役割分業に反対の意見(「そう思わない」と「どちらかというとそう思わない」の合計)の学生は9割を超え、4年前(2018年度新入生)に比べて15%も増加している。女性の経済的自立の必要性や、家事・育児の分担についても同様の傾向がみられており、入学者の性役割意識は年々薄れている。(性的役割意識が強い方を「赤」、弱い方を「緑」で表示)

④「男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい」という考え方について



⑤「家事や育児は男女問わず平等に分担すべき」という考え方について



(2) 卒業予定者(卒業時)「キャリア支援調査」結果

卒業間近の大学 4 年生および短大 2 年生を対象に実施した「キャリア支援調査」について、2019 年度以降の調査結果と比較しながら紹介する。

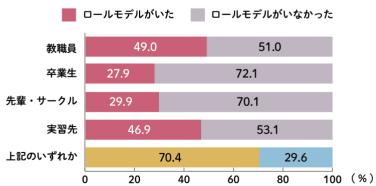
年度	対象者	調査期間
2019	大学 4 年生 432 名/回答数 219 回答率 50.7% 短大 2 年生 106 名/回答数 52 回答率 49.1%	2019年12月12日~2020年3月15日
2020	大学 4 年生 486 名/回収数 277 回収率 57.0%	2020年12月20日~2021年3月28日
	短大 2 年生 93 名/回収数 38 回収率 40.9%	2020 12/3/20 [1 2021 0/3/20 [1
2021	大学 4 年生 463 名/回収数 202 回収率 43.6%	2021年12月13日~2022年3月30日
2021	短大 2 年生 101 名/回収数 70 回収率 69.3%	2321 1273 18 11 2322 873 88 11

①本学で出会ったロールモデル



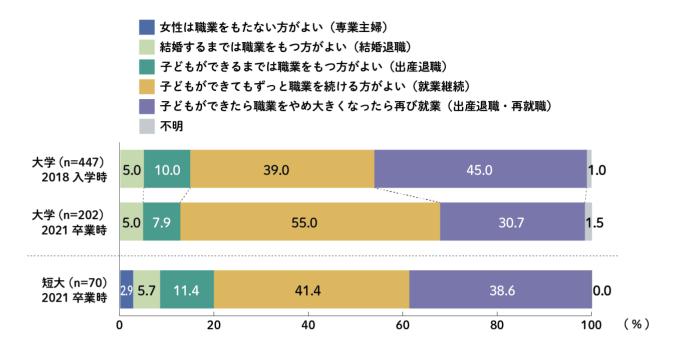
新型コロナウイルス感染症防止のためのオンライン 授業が増加し対面での出会いが減ったことから、2020 年度と 2021 年度は、大学・短大ともに「0 人」の回 答が増加した。

2022 年度は右図のように設問を変更して実施した。本報告書作成時点ではデータ収集中のため途中経過を報告する。7割の学生が、教職員や実習先等に「ロールモデルがいた」と回答している。



調査対象: 2022 年度大学 4 年生・短大 2 年生 計 577 名 回答状況: 回答数 294、回答率 51.0%(2023 年 2 月 17 日時点)

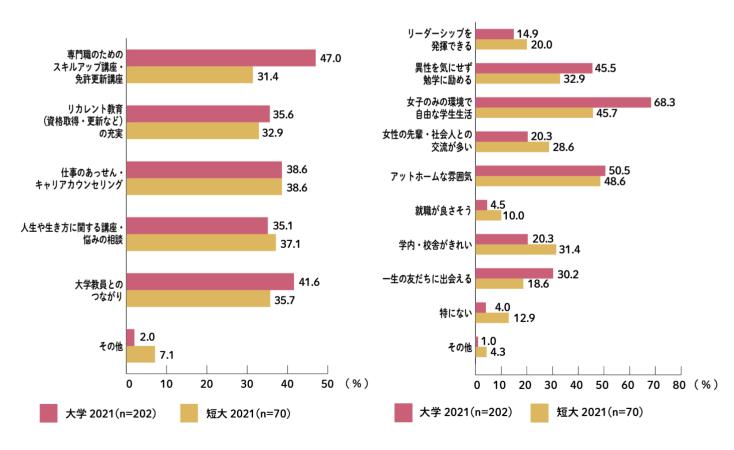
②希望するライフコース



大学生の場合、入学時 (2018 年度) には「出産退職・再就職」(45.0%) が最も多かったが、卒業時 (2021 年度) には「就業継続」(55.0%) が最も多く選ばれている。短大生は在学期間が短いためか、こうした傾向は見られていない。

③卒業後の支援に関する要望(複数選択)

④女子大の良い面(複数選択)



(3) 卒業生対象 第4回「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」結果

卒業後5年以内の卒業生を対象に、第4回「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」を実施した。主な質問内容は「現在の就業状況、勤務先、仕事に対する意識(働きやすい環境か)、卒業後最初に就職した勤務先、最初の勤務先で求められたスキル」などである。

■調査概要

調査対象:卒業後5年以内(2017年~2021年)の本学卒業生 調査期間:2022年7月28日(葉書郵送)~2022年8月31日

調査方法:郵便葉書での調査依頼/専用フォーム (Forms) によるインターネット調査

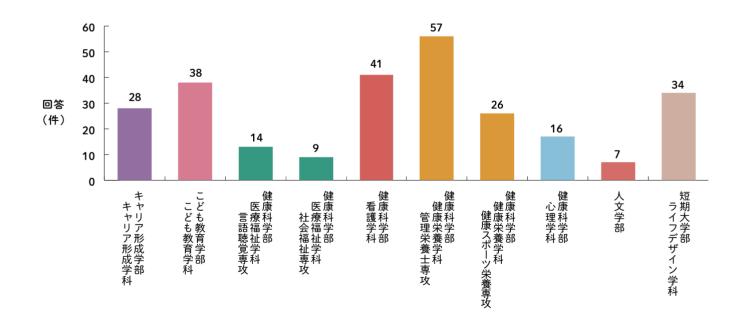
回答状況: 発送数 2,296 通 有効回答数 270 件 回答率 11.8%

■調査結果

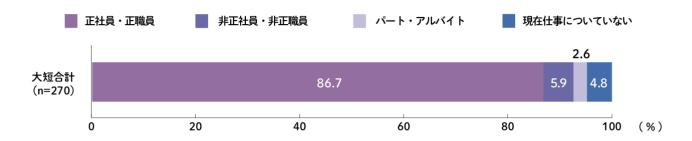
①回答者の割合(卒業年)(N=270)



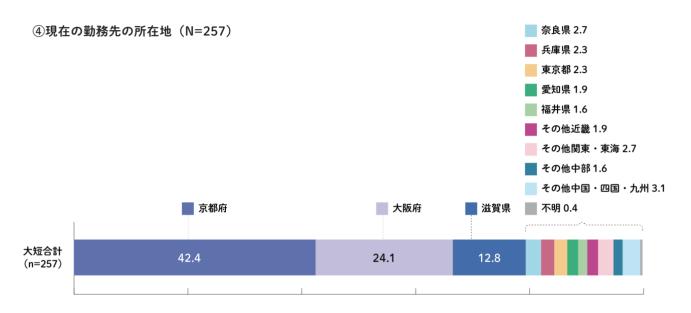
②回答者の割合(所属学科)(N=270)



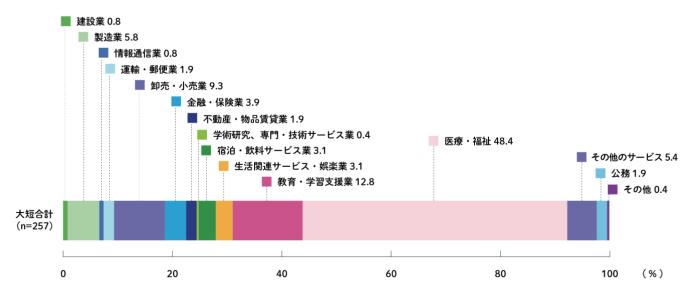
③現在、何らかの仕事に就いているか(N=270)



就業中の卒業生が95.4%で、正社員・正職員として就業している人が86.7%と最も多かった。

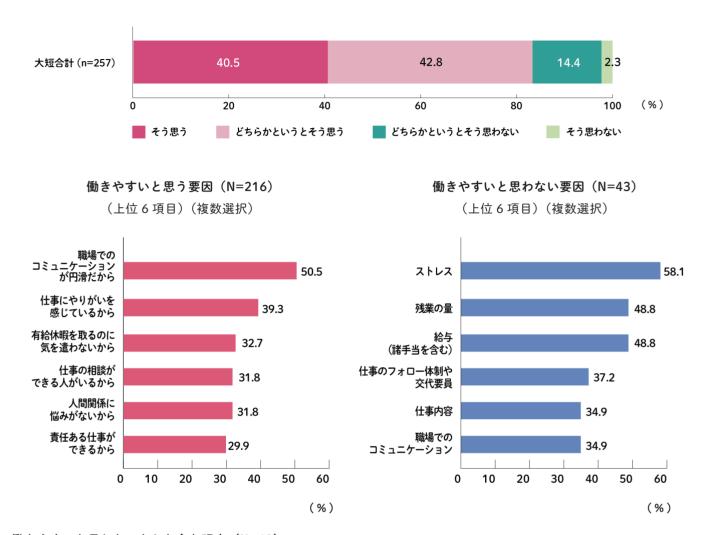


⑤勤務先の業種 (N=257)



現在の勤務先の所在地は、京都府内が 42.4% と最も多く、大阪府、滋賀県と続いた。関西地方に勤務している人は全体 の 86.4%と多数を占めている。業種は医療・福祉系が 48.4% と半数近く占めており、教育・学習支援業 (12.8%)、卸売・小売業が (9.3%) も多い。

⑥現在の職場は働きやすい環境か(N=257)



働きやすいと思わないとした主な理由(N=43)

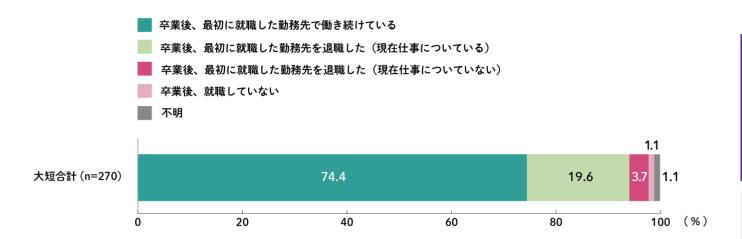
※自由記述回答をもとにした集計。複数の意見を挙げている回答者もいるため、合計件数は対象人数と一致しない。

業務量に関すること (14 件)、同僚・上司等に関すること (12 件)、給与に関すること (10 件)、労働時間に関すること (7 件)、福利厚生に関すること (4 件)、労働環境に関すること (3 件) など

現在の職場は働きやすいか?という質問に対し、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と答えた人の割合は全体の83.3%であり、多数の人が職場環境に満足していることが示される。働きやすいと思う要因では「職場でのコミュニケーションが円滑だから」を選択した人が50.5%と約半数を占め、後ほど®で紹介する「最初の職場で求められる能力やスキル」の結果と合わせると、職場での良好なコミュニケーションあるいはそれを構築する自身のコミュニケーション能力が職場環境の認識に良い影響を与えることが示唆されている。

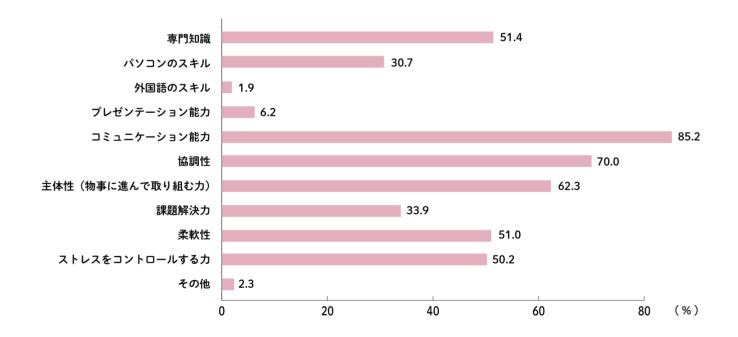
一方、働きやすいと思わない要因では「ストレス」を選択した人が 58.1% であるが、自由記述回答では業務量に関すること、同僚・上司に関することなどが多くを占めている。多様な要因からストレスを感じ、職場環境の認識に影響していると考えられる。

⑦卒業後、最初に就職した勤務先の勤続状況(N=270)



卒業後、最初に就職した勤務先で働き続けている人が 74.4% と最も多く、最初に就職した勤務先を退職したが現在仕事についている方が 19.6% と続いた。

⑧最初の勤務先で必要とされた能力やスキル(N=257)(複数回答)



最初の勤務先で求められた能力やスキルを複数選択形式(5つを上限として選択)にて尋ねたところ、「コミュニケーション能力」が85.2%と最も多く選択された。次いで「協調性」「主体性」の選択率も高い一方、「外国語のスキル」「プレゼンテーション能力」は選択率が低い結果となった。

Ⅱ.減災リーダー育成プログラムの開発

(1)活動報告

男女共同参画視点の減災リーダー育成プログラムの開発は、本学の校訓「真実心=慈悲心」と、本学の学科・専攻の専門性を活かした新たな取り組みである。全国的に災害リスクが高まるなか、自治体、本学の各学科・研究所・センターが連携し、本学の人的資源・物的資源を活用した減災に取り組む手法の開発に向けて研究を進めている。

各学科の特色を活かした男女共同参画視点の減災リーダー育成をめざし、2019 年 4 月に「京都光華防災サークル Daisy」が発足した。これらの活動を通じ「男女共同参画視点の減災リーダー育成」、および民間団体や行政機関など 多様な団体が協働して防災の取り組みを行うことのできる地域連携の拠点となることを目指している。

■ 幼稚園避難訓練

日時: 2022年6月20日(月)

場所:光華幼稚園

主催:光華幼稚園、京都市消防局右京消防署

概要:園内で火災が発生したことを想定し、教員と一緒に園庭へ避難する練習が行われた。

避難訓練は、実際の災害を想定し、安全に避難できるようにするための予行演習でもあり、教員だけでなく参加した学生も 避難時の流れや教員の動きを見学することができた。その他、署員による消火器訓練の講義や、防火衣の試着なども行われ、 参加学生は、園児の防火衣体験をサポートした。



■ 防災クロスロード研修会

日時:2022年7月3日(日)

場所:葛野集会所

主催: 葛野学区自主防災会

概要:葛野学区内各町内会が参加し、右京消防署員による防災クロスロード研修会が行われ、本学学生と職員が参加。 4 名程度のグループに分かれ、右京消防署員が様々な事例を紹介し、その時にあなたならどう行動するかを問われ、なぜその 選択肢を選んだのか一人ひとり自分の考えを述べる形式で意見交換した。二次被害や災害の可能性、避難所運営者としての 視点を学ぶ機会となった。

■学内防災訓練

日時: 2022年8月22日(月)

場所:北校地 テニスコート、清風館、1号館など

概要:教職員対象の防災訓練(避難訓練、防火関連施設・避難器具設備の訓練体験、消火器体験)に学生3名が参加。 教職員3班に分かれ、火災を想定した避難訓練が行われた。



■ 普通救命講習

日時:2022年10月26日(水) 場所:京都市消防局右京消防署

主催:女性キャリア開発研究センター、京都市消防局右京消防署

概要:京都市消防局による普通救命講習に参加した。普通救命講習は、応急手当のうち、AEDの使用方法を含めた成人に対する心肺蘇生法(胸骨圧迫と人工呼吸)、止血法及び異物除去法を学ぶ講習で、事前にe-learningにより予備知識を学習し、右京消防署員による講義と実技を受講した。学内からは、看護、こども教育学科の学生12名が参加した。人形を使った心肺蘇生法は、想定よりスキルが必要であることを学び、参加者の多くに、今後救急の現場に遭遇した場合は経験を生かせるようにしたいとの感想が見られた。



■ 葛野学区防災訓練

日時:2022年11月6日(日)場所:京都市立葛野小学校 主催:葛野自主防災会

概要:女性キャリア開発研究センター職員が参加し、避難所運営訓練や自主防災資器材の取扱訓練、段ボールベッドの組立 体験など、今後起こりうる災害を想定した訓練を地域住民とともに行った。

■ あかね祭出店

日時: 2022 年 11 月 12 日 (土) 場所: 京都光華女子大学駐車場 主催: 防災サークル Daisy

概要:あかね祭来場者に防災減災等の啓発を目的に、より身近に考えてもらう防災関連の企画を実施した。右京消防署の協力を得て、起震車、消火器、防火衣(園児・児童対象)コーナーを設置し、300人(延べ人数)が体験した。また体験者には、非常食サンプル(お湯や水で作れるおにぎりや、長期保存可能のパン)、京都市消防局のノベルティグッズを配布した。



■避難所模擬運営

日時:2023年1月14日(土) 場所:京都光華女子大学第一体育館

主催:京都光華女子大学正課科目「産官学連携プロジェクトd」

概要:学科問わず全学科履修可能な「産官学連携プロジェクト」科目において、災害時の避難や避難所運営のあり方について学ぶ本学の学生10名が、「2040年の避難所運営」をテーマとして外部機関(右京区役所・右京消防署)および地域住民の協力のもと、学生と官民が協働した避難所開設・運営を行った。



Ⅲ. 女子大学連携のためのネットワーク

女子大学連携ネットワークは、2018年度、京都の3女子大学(京都女子大学、同志社女子大学、本学)が中心になって 結成された。2019年度より大妻女子大学、和洋女子大学が幹事校に加わり、現在5女子大学で運営されている。これまで5回 のミーティングと2回の「国際女性デーシンポジウム」を開催する中で、多くの女子大学関係者ととに、女子大学が取り 組む課題などについて情報交換を行い、連携協力体制を構築している。

「女子大学連携ネットワーク」の趣旨

これからの女子大学が取り組む課題について、情報交換を行い、連携協力体制を構築していきます。日本の女子大学が 果たす役割を共に考え、語り、発信し、学術的成果を提示するとともに、社会貢献の足がかりとしていきます。





■第4回ミーティング

各大学での取組みに繋がるヒントが得られるよう3つ のグループセッションを設け、幹事校からの事例紹介を もとに意見交換を行った。

▶日 時 2022年9月5日(月)18:00~19:00

▶ テーマ 選ばれるための女子大学の戦略

セッション1:女子大学で成長する仕組みづくり

~女子大学で伸ばせる力とは~

セッション2:卒業後の学び直しと絆づくり

~卒業生の学びを支援するために~

セッション3:女子学生のためのリスクマネジメント

~学生の危機意識をどう育てるか~

▶話題提供

セッション1:同志社女子大学、和洋女子大学、

京都女子大学、京都光華女子大学

セッション2:和洋女子大学、京都女子大学 セッション3:大妻女子大学、同志社女子大学

▶参加者 33 大学 80 名がオンライン参加

▶セッション1 (意見交換)

卒業生への調査で、若い年代の方が、「女子大学でよかった」 と回答している。若い層は積極的に女子大学を選んでいる のではないか、男子がいないことをマイナスではなく、 ジェンダーの学習ができる、女性の力を発揮できるなど プラスの側面としてとらえているのではないか。

積極的に女子大学を選んでいることから、期待に沿うカリキュラムを用意すること、カリキュラムの内容が 重要である。 1年生の必修科目として配置することで様々な気づきがある、卒業生を招いて話を聴くことで将来へのプランが描ける。

女子大学に対する保守的なイメージを変えるのは難しいかもしれないが、女子大学が協働で訴えていくのがよいのではないか。

女性のキャリアをどのような形で教えていくのか、単なる就職支援にとどまらずどのような形で教えていくのか、 共学とは違うキャリア支援が難しい。





セッション2 距離提供 京都女子大学 女性のためのリカレント教育課程 タポステ大学 おび長 地域温度研究セッシー長 中山路子

ことが重要である。

よいのかが難しい。



▶セッション2 (意見交換)

キャリアといっても、ゼロから仕事を探す人、管理職としていきたい人、いろいろな考えがある。

これからの大学はリカレント教育のみならず、女性の場合は、家事・育児、有給の取り方、子育てなども支援していかなければならない。

学生のうちから、ワークライフバランスの考え方や、子育て をいかにイメージして伝えていくかが大切である。

▶セッション3 (意見交換)

危機管理は、大学と学生の協働により成り立つことを 学生に理解してもらうことが必要。

若手研究者サポートなどは目的がはっきしているが、多

様な学生がいる中で、どのように学生を育てていったら

学生自身がリーダーシップ教育を求めているのかどうか、

ジェンダー科目があるほどジェンダー意識が変わってい

く。ジェンダー科目を全学に広げるために選択必修の枠

を作るなど、カリキュラムの中で一領域として確立する

学生の多様性に応じながら取り組む必要がある。

性犯罪は女子学生にとって最大のリスクの一つ。いかに 具体的に身を守るのか、いかに犯罪にあうことを防ぐ のかを教えるのが重要。

いかに防ぐかというリスクマネジメントは、学生自身を 守るということは言うまでもないが、大学組織、そして 私たち自身を守ることにも繋がる。

■第5回ミーティング

第4回ミーティングで最も参加者が多かったセッション1「女子大学で成長する仕組みづくり」をメインテーマに、女子大学の特徴を活かした教育改革に取組む5つの大学が事例発表を行った。

▶ 日 時 2023年3月6日(月)18:00~19:30

▶ テ ー マ 選ばれるための女子大学の戦略 2 ~女子大学で成長する仕組みづくり~

▶参 加 者 33 大学 90 名がオンライン参加

▶事例発表

聖心女子大学……「人生を切り拓くライフプランニング事業」

椙山女学園大学……「椙山女学園大学における取組み」

藤女子大学………「藤女子大学で立ち上げたプロジェクトマネジメント専修の試み」

フェリス女学院大学…「授業を通じたエンパワーメント

ー性暴力相談支援ワークショップの実践一」

甲南女子大学……「国際英語学科の女性教育」

「『女性』という補助線を引いて専門科目を学ぶ 〜女性教育カリキュラムPJの取り組み〜」





Ⅳ. キャリア教育

(1) キャリア支援

■キャリアガイダンス

各学科のニーズに合わせ、基礎ゼミなどの正課授業において、臨地実習や就職活動前の専門家によるビジネスマナー講座や職員によるミニ講座を実施している。今年度は、全学科が受講できるよう授業期間外にも課外講座としてビジネスマナーやコミュニケーションに関する講座を実施した。自己理解の重要性に焦点を当てたコミュニケーション講座では、コミュニケーションをとる際に必要な知識や他者を受容するスキル等を専門家による講義とグループワークをとおして学習した。就職活動を前にした学生やコミュニケーションに苦手意識があると感じている学生が自主的に参加し、コミュニケーションや自己理解について学びを深めた。



6/2	ビジネスマナー講座(対象:ライフデザイン学科 1 年生)	9/20	ビジネスマナー講座(対象:全学科全学年)
7/1	ビジネスマナー講座(対象:インターンシップ b 履修生)	10/11	ビジネスマナー講座(対象:医療福祉学科言語聴覚専攻 1 年生)
7/25	キャリアガイダンス(対象:心理学科 2 年生)	1/31	コミュニケーション講座(対象:全学科全学年)

■職業適性検査(キャリア・インサイト)

センターに導入している「キャリア・インサイト」は、パソコンから簡単に職業情報の検索、適性と職業との適合、キャリアプランニング等が可能であるため、利用学生の自己理解に役立てられている。学生が主体的に自己分析に取り組み、必要に応じてセンター職員が対応している。「キャリア・インサイト」は、独立行政法人労働政策研究・研修機構が開発・改訂しているキャリアガイダンスシステムで、18歳から34歳程度の職業経験の少ない若年者だけでなく、35歳以上で職業経験のある求職者も対象とされているため、学生だけでなく、リカレントプログラム受講者も活用している。

■図書コーナー

2019 年度からセンター内に図書コーナーを設置し、国立女性教育会館(NWEC)女性教育情報センター所蔵図書の貸出サービスを行っている。キャリア、子育て、防災、多様性などのテーマで、図書パッケージは3か月ごとに入れ替えられている。2022 年 $10 \sim 12$ 月「ジェンダー、しごと、文化、貧困」のテーマにおいては、「働くことを通して考える共生社会」(村木厚子著,日本経済評論社)や、「『くらし』の時代:ファッションからライフスタイルへ」(米澤泉著,勁草書房)など、学生だけでなく社会人にも関心を引く多様な図書を提供している。



■卒業生紹介コーナー

卒業生の顔写真とそれぞれの就職先の情報や商品、在学生へのメッセージだけでなく、卒業生の活躍を在学生に情報発信し、ロールモデルの提示を行っている。また卒業生による授業内での講義や地域連携推進センターと共催の「卒業生交流会」(「京都光華文化講座」)の参加者により、卒業生のネットワークが拡大し、異なる年代において交流が生まれている。



▶京都光華文化講座・卒業生交流会「人生の転機をプラスに変える – 女子大学でできること |

11月17日(木)

会場: 富小路まちやキャンパス(京都)

テーマ: ~卒業後のキャリアと伝統産業西陣織の現状~

【ゲストスピーカー】

今河 真代氏 (卒業生・今河織物株式会社)



1月7日(土)

会 場 :京都アカデミアフォーラム(東京)

テーマ:愛されるキャリアの秘訣

【ゲストスピーカー】

和田 裕美氏 (キャリア形成学科客員教授・卒業生)



(2) インターンシップ

全学科共通科目として正課内で行うインターンシップと併せ、正課外のプログラムも提供している。大学コンソーシアム京都主催「インターンシップ・プログラム」をはじめ、企業・自治体・NPO 法人等での就業体験を通して、社会人としての心構えや仕事のやりがい、働くことの意味を知り、自身の適性・能力を見出すきっかけにしている。

年初には、インターンシップ実習先紹介として団体、企業等によるインターンシップガイダンス(説明会)を、期中には事前・事後学習、成果報告会等を開催。実習先の選択から応募書類のアドバイスなどの事前準備、実習終了後の振り返り作業の事後フォローまで、学生に合わせてサポートしている。

▶インターンシップガイダンス説明実施団体

4/8 公益財団法人大学コンソーシアム京都

5/27 NPO 法人 JAE 事務局、京都府福祉人材サポートセンター、株式会社カース・キャリアセンター、福井県経営者協会

▶インターンシップ先(正課科目「インターンシップb」履修者 44 名)

ウェスティン都ホテル京都、株式会社 OVO、株式会社フラット・エージェンシー、株式会社ロイヤル住建、株式会社葵総合保険、株式会社 花工房、株式会社国華荘びわ湖花街道、株式会社西利、株式会社大槻シール印刷、亀岡市役所、京都駅ビル開発株式会社、京都生活協同組合、公益財団法人大学コンソーシアム京都、滋賀県庁、社会福祉法人熊千代会こぐま上野保育園、大谷大学、丹波ワイン株式会社、特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21、柊家株式会社、有限会社丸益西村屋、有限責任事業組合まちとしごと総合研究所、株式会社カース・キャリアセンター、社会福祉法人健光園特別養護老人ホーム健光園あらしやまなど

▶インターンシップ先(自発的な参加)

法務省、東京都庁、IIOプロデュース株式会社、NPO法人ハーモニーきょうと(NPO法人ドットジェーピー)など



インターンシップノート

■事前学習、事後学習、成果発表会

当センターオリジナルのインターンシップノートを使用し、事前学習では企業研究や目標設定、事後学習では実習を振り返り、気づきや得た力を再確認している。事前学習では、社会人としての基本的な挨拶や電話対応、メールの送り方などのビジネスマナーを学習している。また、成果報告会では、プレゼンテーション発表で実習での成果や学びを共有し、今後の就職活動や将来の進路選択に役立てている。1月13日に実施した成果発表会では、実習の振り返りだけでなく学んだことをアウトプットする機会となり、また次期にインターンシップ実習を希望する学生が聴講することで、互いに習熟度を高める場にもなっている。



■大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムにおける学生の受入れ

今年度は、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムの実習 先として2名の学生を本学に受け入れた。大学事務職員の業務を体験する ため、各部署の業務だけでなく、オープンキャンパスや防災訓練(職員対象) にも参加し、最終日には実習を振り返る報告会を実施した。

▶受入学生:京都外国語大学3年生、同志社大学2年生▶実習期間:8月18日(木)~8月31日(水) 10日間



(3) ボランティア

誰かの役に立つことの喜びを通して、心豊かな人間性を養い、受入先での業務と併せて、「働くことの意義・価値」を 学ぶ貴重な機会としている。当センターでは、学生一人ひとりに合ったボランティア活動への参加を勧めている。

■参加ボランティア紹介

- ・不登校の子どもと雑談(NPO 法人 D.Live)
- ・子ども食堂の運営(NPO 法人 happiness、深草こども食堂)
- ・小中学生の学習支援(豊郷町地域総合センター、城陽市立城陽中学校、NPO 法人 happiness)
- ・学習支援(豊郷町地域総合センター、城陽市立城陽中学校)
- ·保育補助(京都市立 明徳幼稚園)
- ・プレイリーダー、イベントサポート(公益財団法人青少年野外活動総合センター、東近江市社会福祉協議会)
- ・イオンモールでのイベントサポート(一般社団法人ユメ・フルサト)
- ・京都ハンナリーズバスケットボール教室運営サポート(第一生命保険株式会社)
- ・イベントスタッフ(京都モダン建築祭 実行委員会、一般社団法人PFF)
- ・京都マラソン 2023 (京都市文化市民局市民スポーツ振興室) など



日時:2023年2月19日(日)

会場:京都市内(西京極・梅津ブロック)

参加者:健康栄養学科健康スポーツ栄養専攻3年生2名、看護学科2年生2名



(4) 学 Booo

教職員の提案により募集する通年・前期・後期のラーニングコミュニティ、通称『学 Booo(まなぶー)』は、自由参加型の学習グループである。学生が自分の興味や関心のあるテーマを選択し、同じ興味を持った他学年・他学科の学生や教職員がアドバイザーとなり、少人数グループで定期的に集まり学習に取り組んでいる。今年度は、11 グループが前期(通年)に、3 グループが後期に開始し、新しい6 グループが始動した。毎月の活動は、 $https://www.koka.ac.jp/manabooo/で報告している。今年度は、初めて「学 Booo 成果発表会」を実施した。活動期間中の成果や制作物等について、主に参加学生の <math>1\sim 3$ 年生が発表し、聴講者と学びを共有した。

▶ 2022 年度学 Booo スケジュール

3/1 ~ 4/10	募集期間(通年·前期活動分)
4/20	学 Booo 選定会議
4/28	説明会 11 グループ(学生向け 12:10 ~ 12:40 特 2 教室)
8/1 ~ 9/9	募集期間(後期活動分)
9/21	学 Booo 選定会議
2/9	成果発表会 12 グループ(12:50 ~ 14:20 聞光館 253 教室)

各グループの活動期間(11 グループ:4月~3月、3 グループ:10月~3月)



説明会



成果発表会

通年/体験実習 l'screem(映像研究会・アイ・スクリーム)

呉 鴻 (キャリア形成学科)

昨年度に引き続き、葛野まちづくりプロジェクトと「竹姫 光の物語'22」イベントを 共同開催し、プロジェクションマッピングを実施しました。校舎賢風館の壁一面に大きく 映し出される映像に、来場した多くの地域の方が感動された様子です。また、前期では フィルムワークショップを開催し、映画フィルムに直接描いた手法でアニメーションを 制作しました。



通年/体験実習 コミュニケーション支援プロジェクト

松田 芳恵、瀧澤 透 (医療福祉学科言語聴覚専攻)

月1回、学生と教員が加音(NPO 法人加音西京極作業所)を訪問し、利用者さんと絵本の読み合わせやゲームを通して交流しました。また、失語症勉強会など、学生の希望に応じて勉強会を行い、夏と冬に1回ずつ、当事者さんをお招きして失語症サロンを開催しました。来年度は「楽しかった」を合言葉に、他の作業所訪問も計画しております。



通年/体験実習 くりえいてぃ部 ~ Creative ~

小山 理子(ライフデザイン学科)

日常英語の勉強会、留学の勉強会、ゲストスピーカーとの英会話レッスンなどを行い、英語活用力のブラッシュアップに努めました。毎週 20 時からオンラインで開催しているため大学生、社会人、外国の方が交流する場の運営が実現しました。次年度は国際交流イベントの開催を目指します。



通年/体験実習 yogi meets Koka

谷本 拓郎(心理学科)、小谷 真以(心理学科コモンズ)、千葉 晃央(医療福祉学科)

ヨガを通じて、たくさんの方とつながり、心地よい時間と体験を共有できました。学生、 教職員、地域の方々と結びつき、「ヨガ初めてだけど興味がある!」、

「ヨガはやっていて、もっと深めたい!」、「身体を健康にしたい」など、ヨガに取り組む理由も様々です。ヨガの輪が広がり、ヨガがある生活で幸せになれる。そんな時間をこれからも提供できる yogi meets Koka でありますように。



<u>通年/PBL</u> SDGs で世界の健康と未来を考える!~ Future Bridge ~

キット 彩乃 (看護学科)、須藤 和恵 (国際交流センター)、草野 マキ (国際交流センター)

新しく立ち上がったサークルということで学生さんも教員/スタッフも手探りで活動を行った1年でした。活動内容は主に海外経験のある人から話を聞いたり、ウクライナチャリティーコンサートの司会や募金活動を行ったり、インドネシアから研修生が来学されたのでその方々の受け入れを行ったりしました。来年度は日本語日本文化研修のお手伝いをメインに活動を展開していく予定です。



通年/体験実習 日本の伝統美・和のテイスト研究会

久世 奈欧 (ライフデザイン学科)、藤原 加織 (学長戦略推進部)、真東 美也子 (本学卒業生・旧職員)

日本の伝統文化から美意識を学び感性を磨く「日本の伝統美・和のテイスト研究会」では、なかなかおさまらないコロナ禍の影響により、学外実習はすべて中止し、学内での書の学習と毛筆での稽古のみを実施しました。次年度こそ、本学所蔵の十二単衣の鑑賞やきものの着付け、お香の体験学習や伝統芸能鑑賞などを通して「日本の美の世界」を学ぶため、学内・学外体験型イベントを中心に企画を行う予定です。



通年/体験実習 大学院インタ View!

岩中 伸壮 (健康栄養学科)

2年目の「大学院インタ View!」では、感染対策のため対面活動を控えておりましたが、3月に2回生メンバー2名で立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科の3つの研究室を訪問し、教員と大学院生5名にインタビューをしながら交流しました。メンバーの中には、今回大学院進学が見事決定した学生もおり、少しでも力になれたこと、担当教員として嬉しく思います。この流れを加速できればと考えています。



通年/体験実習 本×図書館サークル ビブリオフィリア

大原 佳世 (図書館)、太田 蕗子 (真宗文化研究所)、下川 理子 (図書館)

今年度も本好き女子が集まり、それぞれのおすすめ本やお気に入りの本のフレーズを紹介したり、図書館の貴重書について学んだりして、本や図書館を楽しむ活動をしました。12月には、図書館の選書ツアーに参加しました。「読みたい本やおすすめしたい本を選ぶことができてとても楽しかった」とワクワクして選んでくれたようです。来年度もさらに本の魅力を体感できるような企画を考えていきたいです。



通年 /PBL レインボープロジェクト~ 人を支える社会づくりを考える ~

塩﨑 正司 (学習ステーション)、小澤 千晶 (真宗文化研究所、キャリア形成学科)

障害の重い子どもたちと直接交流することで、当事者の日常生活の実情を理解しながら、何ができるかを考える活動を行っています。今年度は、医療的ケア児とその家族の居場所づくりに取り組む団体「稲荷の家ほっこり」の子どもたちとその家族を、7月にはリモートで、11月にはあかね祭に招待し、交流イベントを開催しました。活動には専門職として働く卒業生も参加し、学生がキャリアプランを考える一助となっています。



通年/PBL 葛野まちづくりプロジェクト

金治 宏(キャリア形成学科)

葛野学区のみなさんと交流を深め、地域と学生をつなぐことを目標に活動しています。 8月4日には、葛野学区を知るためにまち歩きを実施。12月23日には交流イベント 「竹姫 光の物語 '22」を学内で開催し、多くの地域のみなさんが参加してくれました。 イベントでは、交流をはかる仕掛けとして竹を使ったワークショップも実施しました。 これらの取り組みは、学生が大学での学びを深める場になっています。



呉 鴻 (キャリア形成学科)、金治 宏 (キャリア形成学科)

京都の伝統産業としての伏見酒づくり文化を危機(若者の日本酒離れの傾向)から守る べく、この学 Booo は招徳酒造株式会社と連携し、若い女性に親しまれやすい日本酒を 企画するために活動しています。光華にちなんだ「光」と「華」の 2 種類 200 本の日本酒 を試作し、地域の方を無料招待して試飲会を開催します。このプロジェクトは「きょうと 府内定着等推進事業」に採択されました。



後期/PBL KOKA ☆オレンジサポーターズ

関 道子(医療福祉学科言語聴覚専攻)

今年度は前期の産官学連携プロジェクト科目と連動して活動を行い、お口の介護予防 サロン「KOKA ☆オレンジサロン」の開催(5月·7月·9月·11月·1月·3月)、 食べる機能を維持するためのトレーニングを記載したパンフレットの作成(協力:嵯峨 美術大学)、学生が高齢者のお宅にお電話するオンラインおしゃべり会、上級生から下級 生に向けた勉強会を実施しました。また、出張イベントも再開しました。



後期/体験実習 日本の伝統木材「桐」〜触って・使って「良さ」を学ぼう・繋ごう〜

大橋 良浩 (医療福祉学科言語聴覚専攻)

連携する北路桐材店の見学、学祭展示会を行い、桐材のランチョンマットで光華ブランド をプロデュースすることになりました。各メンバーが実際に自宅でランチョンマットを 使用した感想・改善点などを集約し、今後は職人とのミーティングでデザインの方向性 を決定し、いくつかのサンプルを作成後、地域の高齢者施設やカフェで試しに使って 頂く予定です。そのために助成金などの獲得も目標です!



後期/PBL サステナブル KOKA クリエイト lab. 「○○(マルマル)」

宮原 佑貴子(キャリア形成学科)

本活動は、「京都の伝統技術や文化を継承する学生発信のものづくり」を掲げ、製造過程で 発生する廃材や在庫の利活用、顧客開拓、海外発信など、各社から提示いただいたテーマを もとに、学生のアイデアによる商品提案をおこないました。試作や試行錯誤の時間確保は 課題かつ重要な要素であるため、学生に寄り添う計画的な活動を目指したいと考えています。





V. リカレント教育

(1) 本学のリカレント教育

本学では、女性キャリア開発研究センターと地域連携推進センターが協働し、卒業生や地域の社会人があらゆるライフコースで社会実現をサポートするべく 2019 年 9 月からリカレントプログラムを開始した。プログラムの一つであるビジネスプログラムは、毎年「大学連携京都府リカレント」に選定されている。

今年度は「ウェルビーイングに生きる学び直しプログラム」とし、2つのコース: I.「仕事と私生活の両立プログラム」、Ⅱ.「次世代ケアワーカー育成プログラム(職業実践力育成プログラム)」を設置。 I について、京都府リカレント教育推進事業費補助金に採択され、3名の志願者があり、2名が修了した。



2022年度科目一覧

Ⅰ.仕事と私生活の両立プログラム

基礎科目(必修3科目以上、各1回90分)

キャリアデザイン ICT リテラシー 京都の伝統産業 (文化) 男女共同参画とジェンダー マネジメントとリーダーシップ

▶ 自由科目(各科目 90 分授業× 15 回)

[外国語] 実践中国語 ||、観光英語 ||、TOEIC || 実践ビジネス英会話、実践英語 || A・川 B

[ICT・ コンピュータグラフィックス演習 |

データサイエンス] コンピュータ活用 A (テキストマイニング)

コンピュータ活用 B(動画編集)

情報社会の未来を知る、情報リテラシー応用 プログラミング入門、表計算スキル II データ解析入門、ワープロスキル II

「ビジネス] 簿記会計学、経営法務

簿記・会計実務基礎、簿記・会計実務応用

マーケティング、消費者心理学 ブランドデザイン、ロジカルシンキング

女性のアントレプレナーシップ

[QOL] メンタルヘルス論、ターミナルケア

保健医療と福祉、子どもの食と栄養

子どもと人間関係、子ども家庭支援の心理学 ソーシャルワークの基礎と専門職 (専門) くらしのなかの統計学、京都の歴史と文化

Ⅱ.次世代ケアワーカー育成プログラム

▶ 必修(計18時間)

社会福祉を学ぶ基礎(2) 社会福祉の基本概念(2) 自分のためのメンタルヘルス(2) AIが変える在宅医療(2) 介護におけるコミュニケーション技術(4) 行政サービス(2) 評価される報告書の書き方(4)

選択必修(6時間以上)

多職種連携 A (地域包括ケアシステム)(2) 多職種連携 B (看護師からみた在宅ケア)(2) 多職種連携 C (管理栄養士からみた在宅ケア)(2) 多職種連携 D (薬剤師など)(2) 多職種連携 E (理学、作業療法士など)(2)

多職種連携 F (言語聴覚士、歯科衛生士など)(2)

▶ 自由選択(30 ~ 36 時間)

家事支援スキル (2) カウンセリングマインド (2) 健康づくりと運動 (2) 家庭内の虐待への対応 (2) 専門職としてのキャリアアップ (4) ガイドヘルパー (12)

職場研究(6)

施設連携実習(短期)(12)施設連携実習(中期)(30)

受講生に合わせたカリキュラムの実施

I.「仕事と私生活の両立プログラム」を受講した2名には、基礎科目以外にニーズに合わせた特別講座を開講するだけでなく、約40時間の実践型インターンシップや京都府男女共同参画課によるキャリアカウンセリングを提供した。

基礎科目		
10/27	キャリアデザイン (有限会社アイ・ワークでの職場見学含む)	
11/10	キャリアデザイン (Medico-tec 株式会社での職場見学含む)	
12/1 · 12/8	ICT リテラシー	
1/5	京都の伝統産業(文化)(京七宝組合)	
3/7	マネジメントとリーダーシップ	

特別講座		
11/17 · 11/24	CAD	
12/8 • 12/26 • 2/24 • 2/27	英語特別講座	
1/14	フォトショップ・イラストレーター講座	

	自由科目(90分×15回)
(A さん) ・コンピュータ活用 A ・コンピュータ活用 B	(B さん) · プログラミング入門 · データ解析入門 · 簿記会計学

その他		
2/1 ~ 3/8	実践型インターンシップ約 40 時間 事前指導 (9/22・12/7)	
10/13 · 11/16 · 12/13	キャリアカウンセリング	



9/22 開講式の様子



京七宝組合理事長による講義



実践型インターシップの様子

2022 年度修了生の声

本プログラムでは、関心のある授業を選択できたため、アドビやテキストマインドの授業では新しい知識を得ることができました。英語の個人講座では、仕事で外国の方とのやり取りに使える表現方法などを学ぶことができ、受講期間中は知識が増える喜びを実感しました。今後もスキルアップしながら仕事に生かしていきたいです。 (A さん)

新しいことを学んだり、集中して考えたりすることが楽しくとても充実した時間になりました。育児をしている中で、自分の優先順位が下がっていたように感じます。また、様々な立場の方とお話をすることで、多様な働き方への理解を深めることができ、再就職に対しての不安も前向きに捉えられるようになりました。 (Bさん)

「次世代ケアワーカー育成プログラム」授業動画作成

2021年度「多様な知識で貢献する次世代ケアワーカー育成プログラム」で開講された[専門職連携][専門知識・職場実習]の講義をもとに、2022年度「次世代ケアワーカー育成プログラム」のオンデマンド授業動画を下記のとおり作成した。

- ▶ 作業療法士からみた在宅ケア
- 薬剤師からみた在宅ケア
- ♪ 介護におけるコミュニケーション技術①②
- ▶ 理学療法士からみた在宅ケア
- ▶ 専門職による在宅ケア
- ▶ 行政サービス

- ▶ 言語聴覚士からみた在宅ケア
- ▶ 健康づくりと運動
- ▶ AI が変える在宅医療

(2) 女性のためのリカレント教育推進協議会

女性のためのリカレント教育課程を実施する本学、日本女子大学、関西学院大学、明治大学、福岡女子大学、京都女子大学、山梨大学の7大学は、大学が相互に連携をとりながら、問題点の共有と解決に向けての検討を行うとともに、社会的認知のための啓発活動、関係官庁への提言などを行うため、「女性のためのリカレント教育推進協議会」を運営している。2022年度は、リカレントの学びがアントレプレナーの創出に寄与することを期待してシンポジウムを開催した。

■開催日時: 2023年3月16日(木)14:00~17:00

■ テーマ:「アントレプレナーとリカレント」

■講 演:「ユニバーサル・スピリットとしてのアントレプレナーシップ」木下 友宏氏(株式会社カンパニオ 代表取締役)

▶パネルディスカッション

起業を経て:私の等身大のアントレナーシップはここから始まった

▶参加大学 2022 年度活動報告

日本女子大学、関西学院大学、明治大学、福岡女子大学、京都女子大学、京都光華女子大学、山梨大学





▶京都光華女子大学 「ウェルビーイングに生きるリカレントプログラム」報告



女性キャリア開発研究センター 2022 年度報告書

編集・発行 2023年3月

発行者 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 女性キャリア開発研究センター



女性キャリア開発研究委員会

加藤 千恵(センター長/副学長/キャリア形成学部キャリア形成学科教授)

吉田 咲子(キャリア形成学部キャリア形成学科教授)

巽 美奈子(健康科学部健康栄養学科 講師)

貞岡 美伸(健康科学部看護学科教授)

徳田 仁子(健康科学部心理学科教授)

関 道子(健康科学部医療福祉学科 准教授)

山﨑 玲奈(こども教育学部こども教育学科 准教授)

羽深 太郎 (短期大学部ライフデザイン学科 講師)

佐藤 嘉洋(センター所員/キャリア形成学部キャリア形成学科 講師)

土佐 嘉宏(副センター長)

橋詰 侑季(センターマネージャー)

小竹 梓(センター所員)

山元 綾子(センター所員)

辰巳 和可沙(センター所員)

染澤 凛子(センター所員)



京都光華女子大学大学院 京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部 京都光華高等学校 京都光華中学校 京都光華小学校 京都光華小学校 光華幼稚園